

質問および意見書として提出します。

「淀川水系河川整備計画原案に関わる疑問」(再々質問を含む)

2007年10月28日
自然愛・環境問題研究所
代表 浅野 隆彦

再質問に対する回答の中にも、質問の趣旨にマトモに答えず、ハグラカシ、黙秘的なものが多い。明解な回答に成るよう心がけて頂きたい。

- 1) 【463】 河川整備計画原案の今後 20~30 年間に於ける整備内容を検討する場で、「戦後最大洪水」による被害想定はどうか、が先ず基本であり、それが長期目標の計画規模による被害想定をも飛び越えて「超過洪水」被害想定を示す事の、不整合な「説明資料」を改める事ができないのか？と聞いているのである。
- 2) 【465】 ハイドロ・グラフだけでは分からないから、詳しい流出解析(洪水追跡計算)を示して貰いたいと言っているのが理解できないのか？
- 3) 【466】 ハイドロ・グラフだけでは分からない。「戦後最大洪水」に於いて、川上ダム地点で 800m³/s の調節効果があると言うなら、その「検討調査報告書」と枚方地点までの「流出解析(洪水追跡計算書)」を示して貰いたいと言っているのが理解できないというのか？
- 4) 【467】 全く質問に対する回答になっていない。「バランスの定義・基準」を具体的に分かるように答えて貰いたい、その上で、元々、自然の地形として大昔から存在する「狭窄部、洪水氾濫原(遊水地)」を改変して、下流に洪水負荷を増やす事が「上下流のバランスの為にどうしても不可欠の河川整備」と考えているのか？その論理を明確に示して貰いたい、と言っているのが理解できないのか？
- 5) 【468】 全くマトモに答えていない。「雨量確率から流量確率を求める事において、その複合確率は、その 2 つの確率を<確率論の原理>乗法の定理により掛け合わせた数値となる」のであり、「河川砂防技術基準(計画編)」に準拠した現在の「基本高水」は、「計画規模降雨量確率」とは全く整合しておらず、その手順に根本的な修正が必要であろう。以上の事に「確率論、確率・統計学」の学問的立場から、真正面からの説明・反証をされるよう求めているのである。
- 6) 【477】 超過洪水として、集中大豪雨がこの都市部を襲った時、地下浸透や貯留地の少ない事、下水道からの溢水等、都市部ならではの問題があろう。また、その多くは低平地、元からの遊水地である場所も多い。「都市型内水氾濫」に対する特別な対策を持っていないのか？全てこの手の質問に対

し、「水害に強い地域づくり協議会」など関係機関と連携云々と、マトモな回答にならないのは「流域対応策」への不作為があるからなのか？

- 7) 【478】 この項目は【476】と関連するが、「猪名川流域整備計画」発足以来の「進捗状況」を、時系列で詳しく説明して貰いたいと、言っているのである。
- 8) 【479】 これまで無堤であったと言う事は、元々、遊水地としての歴史的経緯があり、その役目を持っていた場所であろう。ならば、流域対応策を様々組み立て、連続堤防化を避ける必要があると考えるが、連続堤防で下流への洪水ポテンシャル増加をどう考えているか？また、当地についても破堤時には大きな被害になってしまうのではないか？
- 9) 【481】 一庫ダムの上流者との協議録を示すなり、費用の中身の説明をして貰いたいと言っているのである。